

他事業等における総合評価の取り組み (指標の総合化に関する参考資料)

1. 各局における取り組み状況

1) 河川局

- ・河川局では、「公共事業評価の基本的考え方」に基づき、ダム建設事業に対する総合評価手法によるケーススタディを実施している。
- ・ケーススタディの結果明らかになった同手法の課題を以下に示す。

ダム建設事業のケーススタディからの課題

全てのダムが全ての評価項目について評価できるわけではない。採点できない評価項目を有するダムが有利もしくは不利にならないようにする必要があり、今回のケーススタディにおいても点数の補正を行っているが、このことの妥当性については引き続き検討が必要である。

新規事業採択数を絞り込む過程において、技術的に未解決の課題があることから不採択となった事業が、今回のケーススタディでは最高得点となっている。技術的課題が未解決といった特殊要因を他の評価項目のように点数で評価することは難しいと考えられる。

実際に採択したD事業と不採択となったG事業を比較すると、わずか1点の差ではあるが、不採択となったG事業が点数の上では上位であった。実際の採択に当たっては、D事業の受益地において過去に夜間断水が生じたこと等を総合的に判断してD事業の採択を優先したものであるが、今回の手法では特に配慮すべき事項があったとしても、点数的には評価されにくい。

(出所：第2回 河川事業の評価手法に関する研究会資料より抜粋)

2) 航空局

- 航空局では、「公共事業評価の基本的考え方」に基づき、一般空港の滑走路新設または延長事業について、平成 15 年度より試行を行っている。
- 試行の結果明らかになった課題について、以下に示す。

一般空港の滑走路新設または延長事業の試行の結果明らかになった課題

「公共事業評価の基本的考え方」においては、評価方法は、事業の特性や地域性等により異なるとされているが、[...] 事業実施箇所が少ない一般空港の滑走路新設・延長事業について、事業の特性や地域性等を考慮し、それぞれに対する評価方法を採用すると、事実上、事業ごとに個別の評価方法を採用することになりかねない。

「公共事業評価の基本的考え方」は、評価項目について、可能な限りもれの無いように設定するとする一方、二重計上を避けるとしているが、例えば、生活機会の拡大について、時間圏が % 以上拡大する評価指標を設定した場合、これは B / C の B と、その大部分が重複するものと考えられ、評価項目として採用することができない。[評価項目に関する類似課題が他に 4 件]

「公共事業評価の基本的考え方」は、評価点の範囲の設定を統一することが重要であるとしているが、この考え方による場合、上限の無い指標（例えば B / C）についても、一定幅の範囲に対し、点という点を付けざるを得ない。この場合、例えば B / C が 1 . 5 の事業と 1 . 9 の事業とでは評価は変わらないものの、1 . 9 の事業と 2 . 1 の事業では評価が変わるという矛盾が生じる。

(出所：「総合評価の試行の結果について」(平成 15 年 6 月 27 日 航空局)より抜粋)

2. 総合評価の種類

総合評価の種類には、ベルギーのように各指標を点数化し、重み付けによる総合得点を算出するようなものから、イギリスのように、各指標について、定量的・定性的な評価をしながらも、点数化等はせず、むしろ評価結果の表現方法に留意することで、国民及び意思決定者に分かりやすい判断材料としているものまで様々である。

現在の日本の客観的評価指標による評価は、定性的評価項目についてチェック方式による二段階評価を行っており、評価の種類としてはイギリスに近いと考えられる。

他国と比較した場合の日本の特徴は、評価指標が多いことである。

- ・事業評価については、19世紀のフランスで費用便益分析についての研究が始まって以来、さまざまな手法の改善が行われてきたが、費用便益分析の限界等を踏まえ、近年では、諸外国においても、総合評価手法による評価を行っているところがある。
- ・総合評価方式とは、事業評価の対象を費用便益分析等による経済的評価だけでなく、貨幣換算が困難なものや、定量的評価が困難なものにまで拡張して総合的な評価を行う手法であり、表1に示すように、いくつかの種類に分けることができる。

表1 総合評価方式の種類

種類	内容	費用便益分析	定量的項目	定性的項目	点数化	指標の統合化(重み付け)	諸外国の例	評価に当たった指標数
種類1	・重み付けによる指標の統合化、優先度を点数で評価						ベルギー	5項目 16指標
種類2	・定量的評価項目を用いるが、重み付けによる統合化はせず、グループ分け				()		フランス	10項目 25指標
種類3	・定量的項目と定性的項目を並列に扱い、統合化せず総合的に評価						イギリス	6項目 17指標
種類4	・費用便益分析を基本に、必要な補正を行う						ドイツ	-
日本(現在)	・定性的項目については項目のチェックによる二段階評価						-	9項目 60指標

表2 諸外国・地方公共団体における評価手法

分類	対象	費用 便益分析	その他外部効果		点数化	グループ 分け	統合化 (重み付け)	順位付け	類 型	備 考
			定量的 指標	定性的 指標						
諸外国	イギリス								類型3	<ul style="list-style-type: none"> 全ての評価項目に関する情報をマトリックス(一枚の「総括評価表」)に整理し、総合化する 金銭的评价項目、その他の定量的評価項目、定性的評価項目が並列 各評価項目は重みを付けずに同等に扱う 費用便益分析は評価項目の一部である 総括評価表に基づき、意思決定者(担当大臣)が総合的に判断
	ドイツ								類型4	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ多くの項目を貨幣換算(9項目?) 貨幣換算できない評価項目(環境リスク評価、地域構造への影響)を費用便益比に統合 意思決定委員会(連邦議会)が総合的な判断
	フランス				(5段階)				類型2	<ul style="list-style-type: none"> 評価項目(定量的項目と定性的項目)毎に、評点付け(スコア化) 費用便益分析は、評価項目の一部である 評価項目毎に各プロジェクトをランキングし、5段階評価 各評価項目の評価結果の集約はされておらず、最終的には意思決定者が総合的に判断
	ベルギー				(5段階)				類型1	<ul style="list-style-type: none"> 評価項目(定量的項目と定性的項目)毎に、評点付けし、5段階評価 費用便益分析は、評価項目の一部である 評価項目間でウェイトを設定 総合評価値(総合得点)により序列化 ウェイト付けにあたっては、政策担当者が政策目標をふまえて行う
地方公共団体	岩手県				(計100点)				類型1	スコアリングの基準(特に定性的指標)については不明
	静岡県				(4段階)				(類型1)	各評価項目ごとに4段階にランキングし、A及びBの総数で優先度を判定(ランキングの基準は不明)
	三重県		×	×	×	×	×	×	類型4	費用便益分析が基本(ただし、地域係数や事業分野ごとの重点化係数による補正)

(既存文献及びインターネット等の調査による)